



★★今月のテーマ★★

- ・ 戸外遊びでしっかり汗をかき、夏遊びを楽しむ。
- ・ セタに興味を持ち、飾りつけなど楽しむ。



～今月の園内学習～

- ・ 足し算…7の段
- ・ 掛け算…7の段
- ・ 数字カード…1～20の数字
- ・ 食べ物カード…今月の旬な食べ物
- ・ 漢字カード…小学校1学年で習う漢字30
- ・ 魚への漢字…「さば」「ふな」
- ・ 木への漢字…「かし」「まゆみ」
- ・ 歴史カード…「伊能忠敬」ほか
- ・ ひらがなカード…「ま行」
- ・ 国旗カード…ガボンほか
- ・ アフリカ各国
- ・ 地理カード…東京都ほか関東地方
- ・ 声に出して読みたい日本語…論語ほか
- ・ 英会話…動物、曜日、季節の種類
- ・ 絵画カード…「アテネの学堂」他

～保育のポイント～

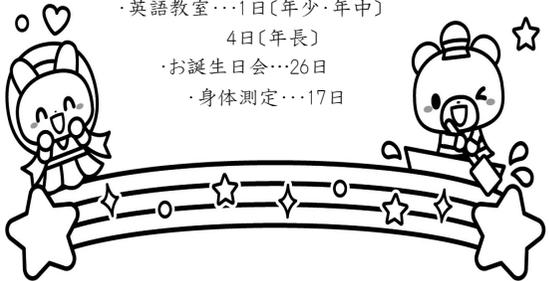
人間には、(三次元的で肉体的な)左脳と(高次的で精神的な)右脳があります。これまでの教育は主に左脳に偏重した価値観で例えば、(1)親が子どもを見る基準を設けたり、(2)他の子と比較して我が子を見がちであるためにどちらかと言えば競争や対立を生み出しやすい傾向に陥りがちです。これに対して右脳教育は、心を育てることを大切に、人への愛と一体感を重く見ることに重きを置いています。そこで、子どもをリラックスさせる、心の子育てをする6つの事項を取り入れることにより親子がリラックスして毎日が過ごせるポイントをご紹介します。①子どもの短所を見ない。長所を見つけて褒める。②今の姿を出来上がった姿と見ない。これからますますよくなると思う。③完全主義で育てない。不完全でよい、今できなくてもよい、と思う。④比較しない。わが子はわが子の個性で伸びていると思う。⑤学力中心で育てない。どんな成績を取ってきても、努力を認め、褒める。⑥そのまま100点と見る。マイナスの評価をせず、子どもの今の姿をそのまま受け入れる。今までの親が子をマイナスに見、マイナスの言葉をかけている間は開けなかったことも心が開けることにつながります。その結果、子どもの性格が穏やかで、人に優しくなるばかりか、能力まで変わってきます。今まで理解力、吸収力、記憶力が悪いと思っていた子が右脳が開けイメージによる記憶や計算力といった分野で能力が発揮され、にわかに吸収力のよい賢い子に変身することに繋がるのです。このことは大脳生理学者で右脳研究で著名な品川嘉也先生の左脳と右脳の学習量の比率は1対100万だと言われていることから理解できます。しかも、この右脳が優位に働きやすい時期が0～6歳までで、それを過ぎると使いにくくなることから右脳教育の重要性をご紹介させていただく次第です。

～「右脳教育」で子どもは変わる (七田真著)より抜粋～



～行事予定～

- ・七夕会…4日・5日
- ・書道教室(年長)…11日・25日
- ・避難訓練…16日
- ・リミック…30日(年少)
- 31日(年中・年長)
- ・体操教室…5日(年少)
- 24日(年中・年長)
- ・英語教室…1日(年少・年中)
- 4日(年長)
- ・お誕生日会…26日
- ・身体測定…17日



さくら組だより



梅雨入りが遅れてやきもきする中、子ども達は真夏日和で早くもお疲れモードの大人を尻目に汗だくになりながらも元気一杯に外遊びを楽しみ、夏本番に備えようとしているようです。さくら組は毎月の課外教室以外に自分達にも回ってきたクッキング教室で高野豆腐の煮しめに旬の梅干しのたたきと切り刻んだ青紫蘇をトッピングに載せた料理に挑戦しました。水で戻した高野豆腐やシソをまな板でトントンと切ったり、梅干しをスプーンで潰していくのを体験しました。特徴的なトッピングで好き嫌いが分かれそうな気がしましたが、意外と好評で完食となっていました。また、リミック教室では新しい先生の下、趣向も新たに楽しく過ごしていました。お友だち同士の仲は表面的にはいいのですが、お互いの心の内だとコミュニケーションが十分とは言えないところがあり、今後は言葉のやりとりにも重きを置いて仲を取り持っていきたいと思っています。



ひまわり組だより



お寝坊気味の梅雨はいつ目覚めるの分からず仕舞で夏日和の中 子ども達は公園遊びの他、熱中症が心配される日には園エントラス近くでのしゃぼん玉遊びで盛り上がりました。最初は、勢いよくフゥ〜と息を吹き込んでしまうことから思い通りにしゃぼん玉が膨らまないこともままありましたが、その加減が次第に分かってくると大きなしゃぼん玉が出来上がって、みんなの歓声に包まれ楽しむひとときとなっていました。先月は「歯と口の健康週間」で絵本「はははの話」で虫歯予防のための適切な歯みがきの意義を学び、併せてお口の中が俯瞰できる模型を使って歯みがきの仕方(歯ブラシの持ち方、磨き方)を再確認し、みんなに「虫歯にならないようにしましょう!」とする意識を植え付けることができたのは有意義なことでした。



ゆり組だより



年長児の就学期に向けた絵の具活動も回を重ねる毎、子ども達なりの想像性を生かした発見を下に作品づくりに取り組んでいます。入梅は未だですが季節柄、外遊びで紫陽花があちらこちらで目につくことからそれを題材に風景画を描きました。今では花の色も随分とカラフルになってきたので混色で色を再現するところからスタート「赤と白でピンク」と思い通りに色が出来たり、「こんな色、できちゃいました…」と困惑することもあります。それもいい体験で作品作りを頑張っていました。体操教室では最近、縄跳びや鉄棒に取り組み中。当初は、縄跳びを回すのにも四苦八苦だったのが今ではリズムカルにピョンピョンと跳び、「へ〜、すごい!」の回数へとなっています。ぶら下がりや鉄棒の上でポーズを作る基本練習を経、いよいよ前回りや逆上がりへと難度を上げて挑戦中。公園では鬼ごっこや木登りなどで頬がポツと赤くなるくらいまで熱中して夏本番に備えた遊びが展開され、元気一杯に過ごしています。



給食だより

～脳の発達に欠かせない味覚教育～



人の味覚は生理学的に、甘味・酸味・塩味・苦味・うま味の5種類で一般的に五味または基本味と呼ばれています。人は食べ物を口に、舌の表面にある味蕾(みらい)という器官を経、狭義的には味を感じ取るのが一般的。世界のミクニ”さんが「味覚の発達は12歳がピーク」の中で味覚と脳の発達との関連性に触れられていて、(ファストフードの急激な台頭で家庭料理がおざなりになる現状を何とかしたいという思いで)味覚を育むことは子どもたちの脳の発達や五感を磨くことに繋がることから重要との言及から幼少期の育みのアプローチの一つとして「味覚教育」をご紹介します。味蕾は食べ物に含まれる五味をキャッチし、神経細胞を通じて「甘い」や「酸っぱい」と知覚する機能を有しています。それ以外にも目で見る視覚、香りをかぐ嗅覚、焼き立てパンを触って感じる触覚に食べている音などで感じる聴覚からも美味しさを感じることができることから味覚は五感を使って食べ物を味わうことが大切と言えます。味蕾は8歳から急速に増え、12歳をピークに減少。ピーク時は約1万2000個なのが大になると半減してしまう。味蕾自体はいろんな食べ物を食して経験値を積まないと使いものにならないそう。これは小脳が8歳頃、大脳は12歳ごろに完成するとされていて、人は8歳頃から急激に、物事への気づきがはじまります。その頃までにどのくらいたくさんの刺激を与えたかによって五感の働きによって脳の発達が促され、味蕾が味をキャッチする度に送られる信号も、脳の刺激となるのだそうです。その五感を駆使することで「味」だけでなく、周囲や相手をよく観察できるようになって自然と想像力も働くようになり、気づきが育まれるので単に味覚を育むだけに止まらず、人間性向上にも効果があるということなので味覚教育を紹介させていただいた次第です。